



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	留学生センター紀要第3号の発刊にあたって
Author(s)	長谷川, 淳; Hasegawa, Jun
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 3
Issue Date	1999-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45573
Type	other
File Information	BISC003_001.pdf



留学生センター紀要第3号の発刊にあたって

留学生センター長

長谷川 淳

1997年10月に創刊号を、また1998年12月に第2号の留学生センター紀要を発刊し、留学生センターを主たる軸足に据えた教官および研究者の研究活動成果を発表してきた。創刊号発刊以来、この留学生センター紀要の定期刊行化を目指してきたが、これはこの紀要を日本語教育および国際交流関連の研究成果を発表する場の一つとして確かなものとさせたいという関係者一同の熱意からくる当然の願いであった。今回、幸いにもここに第3号を発刊できる運びとなったが、この熱意が紀要の定期刊行化実現に道筋を整えてきたことの証となったのではないかと確信している。

大学に所属する教官や研究者は、濃度に濃淡の差はありえるとはいえ、教育と研究とを各人の諸活動の両輪としている。大多数の大学人にとって教育活動が最も大切に考えるべき事柄であることには疑いの余地はない。また、学問の府としての大学にあつては、長期的な視野に立った基礎研究を中心に、世界の一線にたった研究活動を推進する必要がある、その研究のプロセスや成果を通して学術の発展に貢献するとともに、何らかの形で教育活動にそれを活かしていくことが期待されている。

紀要に代表される教育研究組織の発刊する研究活動報告集は、その組織の活性の度合いを測る一つの良い尺度であり、個々の研究者の真摯な姿勢と自己研鑽の如何を写す鏡となっている。また当然のことながら、多くの皆様の厳しい評価にさらされることとなると自覚している。本紀要で発表させていただいた研究成果およびこれまでの研究活動等について、是非、多くの皆様からの率直な評価とご批判をいただければ有り難いと感じている。いただいた評価やご批判を糧として、今後ますますの研鑽に役立てることができれば、何よりも幸いと思っている。